

第7回 日本遺産「里沼」テーマ別 タスクフォース情報共有会議

- 1) 日時 令和5年2月27日(月)13:30~14:30
- 2) 場所 館林市役所3階政策審議室
- 3) 出席 副市長・館林市役所「里沼」関係課職員(秘書課長・文化振興課長、各係長+担当級)
- 4) 副市長あいさつ

久々の開催だが、各チームの事業内容の報告のあと、今後のシビックプライド・ブランディングの両WINGを基軸とした推進体制についても意見交換を行いたい。日本遺産には新たに再審査制度が導入され、認定継続の判断では事業実績・KPIが大きな審査項目となっている。

5)各チーム報告

	各TFチームの取組み報告	質問・意見等	方向性
1	<p>沼辺土地活用チーム (都市計画課・道路河川課・緑のまち推進課)</p> <p>過去3年間の取組みを踏まえ、今年度は郷谷周辺地区及びつつじが岡公園周辺地区の用途地域の見直し検討を進め、都市計画の素案作成にあたり、地元調整、県協議を実施し、都市計画手続きを進めている。また企業誘致に向け、声掛けや視察対応など、引続き事業候補者の動向を探った。</p>	-	-
2	<p>日本遺産ロゴ使用・商品ブランド化チーム (商工課・農業振興課・文化振興課)</p> <p>今年度のロゴ使用商品化は4件。日本遺産申請時の地域活性化計画KPI(令和6年度終了時までに累計30件)は昨年度クリアし、現在累計38件。引続きブランド強化に向け上積みを狙う。</p> <p>百年小麦ブランド化委員会では、スタンプラリー、播種・麦踏み等の生産体験、うどん打ち講座、幼稚園・保育園への食育事業を行った。また、館林商工高校百年小麦PR班と連携した販促活動を実施した。</p> <p>民間主導で館林紬の情報発信拠点整備に先立ち、旧山岸織物の清掃活動を実施。あわせて紬を活用できるプレイヤーを発掘・支援し、民間企業の補助金活用も検討している。</p> <p>4・10月の「つなぐ・まちなか」イベント時に農商工連携プロジェクトの一環としてミニマルシェを開催したほか、農作物残渣から再生可能エネルギーを創出・利活用するための実証実験も行った。</p>	-	-
3	<p>体験型観光関係チーム (つつじのまち観光課・道路河川課・文化振興課)</p> <p>群馬県館林土木事務所側のスタンスが一転し、城沼水面利用者協議会とルール策定が滞っているが、引続き協議会開催と策定を促していく。一方で昨年度からスタートしたカヌー講座について、新たにスタッフ養成講座も開講し7名の会員を得たほか、第五小学校での体験会も大盛況であった。</p> <p>里沼ワークショップとして新規で「多々良沼講座」を昨年11月に2回開催し、次年度でも数回程度の開催を予定。今後は茂林寺沼講座や城沼講座開講を目指しコンテンツ調査を進める。3月にヨシ工作教室を行い、沼のヨシの利活用方法も探る。</p> <p>3月議会で科学館・文学館・映像学習館の共通パスに向けた条例改正案を提出予定。共通パス導入にあわせ第二資料館「モスリン」を日本遺産「里沼」の情報発信拠点として整備。(3月末完成)</p> <p>令和2年度から開始した桐生市・足利市との両毛3市日本遺産認定地連携事業として2月5日(日)に足利市シンポジウムを開催。また8日(水)には東京で3市長による合同トップセールスを実施。</p> <p>その他、Instagramフォトコンテストや、東武鉄道共催の里沼巡りウォーキング、民間事業者へのマイクロツーリズム造成支援、茂林寺沼・多々良沼</p>	-	-

	のサイクリングマップ発行も行った。さらには茂林寺沼南岸用地の利活用にも動きがあるところ。		
4	里沼グローバルトランスミッションチーム（秘書課・文化振興課）		
	各種印刷物やPR媒体の製作については、在庫簿パンフレットの増刷のほか、両毛3市連携事業の一環として日本遺産カードも発行した。3月中にミニ幟旗も納品になるので、入荷次第各方面に配布・設置を進める。	-	-
	市内外での展示会やPRイベントへのブース出展は今年度11件あった。インターネットでの情報発信以外に、AR里沼スタンプラリー（開催中）や広報たてばやしでの新コラム連載もスタートした。小・中学校や公民館への出前講座、旧二業見番特別公開、散策講座なども実施した。さらには市内10箇所のAR里沼サインのほか、青龍の井戸、尾曳稲荷神社、長良神社、土橋門にサインを設置し、ストーリーの普及に努めた。		
	10～11月に小・中学生を対象とした認知度調査を初めて実施。日本遺産の認知度が81.46%、里沼の認知度が87.29%を記録し、認定から4年弱にもかかわらず、高い認知度を得ている状況。		
5	水辺環境保全チーム（地球環境課・緑のまち推進課・農業振興課・文化振興課）		
	城沼の水質浄化に向けて、多々良沼からの導水、鶴生田川礫間浄化を継続実施。共に機械に不具合を抱えており、土木事務所へ修繕を依頼。10月の市民のつどい時に、合併浄化槽への転換促進の啓発を行った。	-	-
	水質浄化装置導入に向け先進地の現状と課題についてヒアリング調査を実施した。故障等による修繕コストがかかる一方で、劇的な水質改善がみられないことから、撤去するところが多かった。		
6	その他		
	【文化振興課】認定から3年10か月が経過し、当初描いた推進体制も動いている部分とそうでない部分がある。このタスクフォースも本来は地域プロデューサーと連動する必要があるが、地域プロデューサー自体にも様々な変化が生じ、活動していないかたもある。ヌマベーション連絡協議会とシビックプライド・ブランディングの両WING、地域プロデューサーとタスクフォースの編成について、見直しを図っていきたい。	【都市計画課】これまでの経緯や議論も踏まえながら、見直しを図る必要性を感じる。次年度早々にTFを開催し、誰が何をやるのか、スケジュールも含めて議論すべきだと考える	次年度からマイナーチェンジを念頭に見直しを進める。
	【文化振興課】推進体制の見直しを進めるなかで、このTFの参加者は係長・担当レベルのままで良いか？部・課長級も招集する必要はあるか？	【農業振興課】報告会であれば現状で構わないが、重要な意思決定をするのであれば、部・課長級でなければ判断できない。	推進体制見直しの中で、TF参加者を再度整理する。

6)副市長総評

各チームからの報告を聞くと、各分野での実績が出ているのは確かではあるが、せっきくの日本遺産や「里沼」を各分野の事業で活用し切れていない現状である。「その他」の意見交換では、推進体制の見直しが論点として出されたが、次の3点の留意しながら、再度検討していくことが重要である。①各TFグループの目的と、参画課による具体的事業とのつながりの明確化、②TF参画課の役割分担の明確化とKPI指標とのつながり確認、③次年度事業実施に合わせたタイムスケジュールの3つである。次回のTFは6月議会後に開催し推進体制の見直しをテーマとする。翌7月からは速やかに動きがとれるように進め行きたい。